

平成28年度  
北海道教育大学  
附属函館幼稚園だより  
NO. 12 【号】  
平成29年1月17日(火)



笑顔の1年に、いよいよラストパートの3学期！

園長 橋本 忠和

明けましておめでとうございます。松の内は終わりましたが、新年のご挨拶を申し上げます。平成29年が園児たちにとって、また保護者の皆さんにとって、さらには本幼稚園の教職員にとって幸多い1年間となりますように…元旦になるとすぐに地元の神社に初詣に行きました。そしておみくじを引くと、なんと「大吉」。新年早々縁起がよい、そして園に関わる皆さんの笑顔の1年に向けて、よいスタートになったと思えました。

今日から3学期です。久しぶりに会った子どもたちは、年末年始の行事や家のお手伝い、そして、初めて体験する風景や出来事にであって、きっと一回り大きくなっていることでしょう。長い冬休みを、特に多忙な年末年始を、温かい家庭の中で健やかに過ごし、本日笑顔で元気な園児を幼稚園に送り出していただいた保護者の皆様に、深く感謝申し上げます。



写真 雪遊び (はな組)

さていつも朝、玄関で園に子どもを預けられたり、また迎えに来られたりする保護者の姿を見ておきますと、保護者の方々の子どもの「しぐさ」の読み取りと支援的的確さに目を奪われます。この子どもの機微への対応が安全で安心できる家庭環境を作っていただいているのだと思います。その子どもの「しぐさ」には、以下の2つのものがあると言われています。

・意図的に出す「しぐさ」

相手に何か伝えたい、察しして欲しい時に出す「しぐさ」。言葉でして欲しいことを巧く伝えられない時、自分の感情に気づいて「しぐさ」で出せる子は、とても健全とされています。

・無意識に出す「しぐさ」

子どもが出そうとしているのではないが、心のわだかまりが重くなってしんどさ等を訴える「心のSOS」のしぐさ\*。

ただ、子どもの「しぐさ」を多忙な生活の中でしっかり認識することは中々、難しいとされています。ただ、どんな時に子どもが一番生き生きとしているか観察し、それが夕食の時なら、心にゆとりを持って、しっかり聞き役に徹することが子どもの「しぐさ」を観察・読み取る目を磨く一つの道だと言われています\*\*。幼稚園においても、そのことを心にして、保護者の方同様に子どもの「しぐさ」を読み取り、支援していきたいと考えております。

さあ、本日から始まる3学期はとても短いです。卒園式は3月4日、修了式は3月13日ですから、あと2ヶ月足らずです。ただ、2学期の行事や日々の生活の様相を見てみると、ゆき組さんは小学生になる準備が着々進んでいること、つき組・はな組さんも、進級して立派なお兄さん・お姉さんになる時期に近づいていることが確信できました。3学期のスキー教室、豆まき・お別れ会等の行事や多様な体験は、その成長を後押ししてくれるでしょう。園の教職員が心を一つにして、幼稚園のラストパートの学期を、ゆき組・つき組・はな組さんが伸びやかに、楽しく過ごせますよう支えてまいります。今年1年、附属函館幼稚園をよろしく願いいたします！

註\*、\*\* 福田俊一・増井昌美『しぐさで子どもの心がわかる本』PHP 研究所、2004年